

入試方式	科 目	学 部	学 科	分野・コース	
面接・小論文方式	小論文	家政学部	児童学科	—	
受験番号	氏 名			採 点	

以下の文章を読み、2つの問いに答えなさい。

ソフィアは、8歳のお姫様だ。生まれながらの王族・貴族ではない。街で靴屋をしていたソフィアの母親が国王と再婚したことで、ある日突然、プリンセスに「なった」。国王には前妻との間に子どもが2人いる。(中略)

ソフィアたちが住むのは魔法の王国で、そこでは空飛ぶ馬ペガサスに乗ることができる。母親の再婚でお城に来たばかりのソフィアは「王子の競技」とされてきた「ペガサス・ダービー」に自分も出場したい、と言う。「プリンセスのすることではない」と義姉のアンバー姫から即座に否定されるが、ソフィアはあきらめない。それを見て国王は息子のジェームズ王子にソフィアにペガサスの乗り方を教えてやるように諭す。

これは、ディズニー公式チャンネルにより、Youtubeでも公開されている『ちいさなプリンセス ソフィア』の第1話で描かれるエピソードだ。既存の「男の子らしさ(王子らしさ)」「女の子らしさ(プリンセスらしさ)」にとらわれているアンバーとジェームズに対して、ソフィアの挑戦をそっと応援する国王と王妃の態度や言葉が興味深い。

ここで描かれるように、小さな子どもは自然のままで「らしさ」の呪縛から自由にはなれない。中には周囲に流されず、自分がやりたいことを主張する子もいるが、多くは「周りと同じようにすべき」という規範にとらわれている。子どもとのちょっとした日常会話で、親がアンバーやジェームズのような決めつけをしていないか。逆に正しい発想を押し付けすぎていないか(私はこの点で反省すべきことが多々あります)。さりげないシーンから、子どもに私たち親が語り掛ける言葉の可能性を見いだせる。

このエピソードでは、最終的にジェームズの支援を得たソフィアがペガサス・ダービーで勝つ過程が描かれている。主となる物語は「女の子も頑張れば何でもできる」であり、小さな女の子たちにとって大きな励ましを与えてくれる。

また、ソフィアとのかかわりが、義理のきょうだいであるアンバー姫やジェームズ王子を変えていくことも見逃せない。わが家ではソフィアのさまざまなエピソードを繰り返し見ており、子ども達はストーリーをよく知っている。それでも、アンバーが「プリンセスはそんなことはしない」と言うと「また、こんなこと言ってる!」と喜んで何度でも突っ込みを入れる。何度も見るうちに、子どもは登場人物の言動を批判的に検証するようになる。(中略)

小学生の息子に、『アナ雪』も、『ソフィア』も、王子の役があんまり重要じゃないね。男の子としてどう思う?と尋ねると「王子がいてもいなくても、子どもは気にしない。面白ければいいんだよ!」と答えた。子どもの感性は、とっくに伝統的な物語から自由になっているのかもしれない。

No. 2

1. 「ちいさなプリンセス ソフィア」を視聴することが、子どもにとってどのような影響を及ぼすのか、著者の考えをまとめなさい。(300字以内)

(30 × 10) ◀ 300字

2. 子どもに関わる保育者・教師の姿勢として、この記事を読まえて重要だと考えることについて述べなさい。(600字以内)

(30 × 20) ◀ 600字